



楚辞卷之

中村俊定文庫
文庫 18
965



人形紙は習書より習
 秋の長さはとくもあまらぬ

物言は喉を

梅の



初會子九月晦日以書達五百六十函可者評

水

初會子の書達五百六十函可者評
 評書に
 評書に
 評書に
 評書に



ヨユクノイイイイイ
 節大坂の... 今三つ切
 節大坂の... 今三つ切
 節大坂の... 今三つ切
 節大坂の... 今三つ切

上四十鏡組
 本島五抄
 下解甲中倉
 和四信
 坂本形
 根平形
 四形及信
 下橋中松

夕虫の飛鳴おしるる
宋江又眉をも懸し下下
のくはのわがくまにま
のくはのわがくまにま
をくまのまをま 疑り
けりしよまをまをま
移つては遠くをのくま
村中しつちをまをま
怪しみの一帯 海へぬく
お門しつちの侍君さ
ろくま下大振知のま
まをくまのまをま

凡そ
下
上田十
中
山
山
山
山
山
山

十一月十日 玄慈連八百六十首 吟可有評

一

張良の金の金
層樓のまを沖へ
花のまを沖へ
相見川まをまをま
月をまをまをま
肉つまをまをま
はくまをまをま

小海色波絶
おぼろ子
和由風
平出推
月白
月白
月白
月白
月白

ア タ イ 子 ア タ イ タ イ 、 一 ・ イ 、 タ ー ア

蓮舟のそとえあうぬ 一 哇
松より時し 出て 門より
十万余をもちあふを 岸より
不破の宮夜毎らあふのつまこつれ
夜の橋しを深き 月より
奴りく花の奥に白 詠め あり
早々の活き 琴より 門の
松とあぬえし 雲砂の 踏か
赤貝の若く 海への くら
乳とれぬ ぬえの 片も 雲
却あふ 二生 足より ぬえの 雲
はまき 松の下 松や 浪の 雲
欲のまゝ 浪より やえぬ 浪の 雲
あふれに 舟次 大津の 藤あふ 雲
雲より 坂より しまりぬ 坂の 雲
増す此の 芋 坂 坂より 人 月 雲
百舌の子に 似て 口より の新 雲

和四連、
新子田柳、
九郎月色、
上野田喜花、
内山松、
稻岩、
山浦初春、
五郎、
上橋井ふた、
下中二と、
今を宮、
街屋大月、
安東、
西田、
上片金かき、
本居美作

ク ア ・ タ 小 ク イ ア タ タ フ イ フ タ 大 子 ア

松山本の花けむる 深けん
あふれも 雲あきり 雲より 状
丸くさしたれ 雲より 雲より 角カ
新入の 雲より 雲の 雲より 雲
尻つぎらぬ 雲より 雲より 雲
鶴くさ 雲の 雲の 雲より 雲
雲雲に 雲より 雲より 雲より
層々の 雲より 月元の 雲より
雲と 雲より 雲の 雲の 雲
田山山 雲より 雲より 雲より
かき 雲より 雲より 雲より
かや 雲の 雲より 雲より 雲の 雲
雲より 雲より 雲より 雲より
雲より 雲より 雲の 雲の 雲
雲より 雲より 雲の 雲の 雲
雲より 雲より 雲の 雲の 雲
雲より 雲より 雲の 雲の 雲
雲より 雲より 雲の 雲の 雲

上橋井柳、
雲より、
大月、
雲屋柳、
八幡男、
雲より、
中居、
片金、
雲より、
雲山、
雲屋古今、
雲より

持
所部氏